

## 第8章 松山遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

松山遺跡は、亀居遺跡付近を湧水源とする福岡江川の左岸、武蔵野台地の一段低い立川段丘面に立地している。東側は荒川低地の沖積地と接し、標高9～10 m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北500 m、東西600 m以上である。宅地開発が進んでいるが部分的に畑が残っている。

周辺の遺跡は、すぐ北側に縄文時代早期～後期、飛鳥時代および中近世にわたる長宮遺跡、福岡江川を挟んだ対岸には福岡新田遺跡、同じく対岸の250 m南東側には、縄文時代前期集落の鷺森遺跡がある。また、西方約350mの比高差9 mを持ってそびえる台地の南東崖面には富士見台横穴墓群が望まれる。

1978年の宅地造成に伴う緊急調査で奈良時代の住居跡を検出したのをはじめ、宅地造成などにより2023年4月現在約170地点で試掘及び本調査が行われている。主たる時代と遺構は、長宮遺跡と接した北寄りに飛鳥時代の住居跡、遺跡中央の東西240m、南北210m程度の範囲に奈良・平安時代の住居跡・掘立柱建物跡・井戸跡、中近世以降の溝・井戸跡などである。特に溝・井戸等の中近世の遺構は東側の低地へも広がりを見せており、遺跡範囲の変更増補を行った。

第13表 松山遺跡調査一覧表

地区 地点	所在地	調査期間 ( )は試掘調査	開発面積 (㎡)	調査面積 (試掘)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
1次	松山 2-5-4	1978.10.14～11.6	479			古代住居跡 2、土師器 等		上埋 I
2次	松山 2-6-7	1979.4.26～5.1	161			古代住居跡 1、土師器		上埋 II
3次	築地 3-1-20	1979.8.7～16	733			古代住居跡 1、須恵器		上埋 II
4次	松山 2-6-9	1982.9.13～24	277			遺構なし、土師器 等		上埋 V
82-1	新田 2-481・482	(1982.8.27～9.14)	1,454		民間開発	遺構なし、陶磁器	旧福岡新田遺跡 (1982年度新田2 丁目試掘)	上埋 V
5次	築地 1-1-16	1983.4.20～28	1,461		住宅建設	遺構なし、須恵器 等		上埋 VI
6次	松山 2-6-16	1984.8.13～28	330		住宅建設	土坑、ビット、溝、須恵器		上埋 VII
7次	築地 2-3-19	1986.1.13～21	237		個人住宅	溝、土師器 等		上埋 VIII
8次	築地 2-4-12	1986.7.1～8	319		資材置場	溝、土師器 等		上埋 IX
9次	築地 1-1-50	1987.10.1～3	288		個人住宅	遺構遺物なし		上埋 X
88-1	築地 3-3-4	(1989.1.9・10)	370		住宅建設	遺構遺物なし		上埋 11
89-2	新田字本新田 400-1	(1989.6.22～27)	495		宅地造成	遺構遺物なし	旧福岡新田遺跡 (1989年度新田 試掘)	上埋 12
89-1	築地 2-3-11	(1989.6.27～30)	1,342		共同住宅	遺構遺物なし		上埋 12
90-1	松山 2-2-9	(1990.9.7～12)	304		個人住宅	遺構遺物なし		上埋 13
10次	築地 2-2-6・2	(1991.9.26～10.4) 1991.10.14～18	1,726	(1,276) 450	個人住宅	古代住居跡 2、溝、須恵器 等		上埋 14
11次	築地 2-1-20・10	(1991.9.10～25) 1991.10.18～21	2,309	(2,029) 280	個人住宅	古代住居跡 1、溝、須恵器 等		上埋 14
92-1	松山 2-6-22・23	(1992.4.17～24)	567		駐車場	遺構なし、須恵器		上埋 15
92-2	松山 2-4-7	(1992.5.6～11)	571		駐車場	遺構なし、須恵器		上埋 15
12次	松山 2-3-11	1992.5.12～20	393		個人住宅	井戸、墨書土器 等		上埋 15
13次	築地 3-2-18	1992.5.18～30	234		個人住宅	古代住居跡 1、須恵器 等		上埋 15、 市内 1
14次	松山 2-5-17	(1992.5.21～30)	432		個人住宅	井戸、青磁碗 等		上埋 15
92-3	松山 2-3-31・13	(1992.6.12～18)	871.9		宅地造成	遺構遺物なし		上埋 15
92-4	築地 1-3-17	(1992.6.3～11)	998		共同住宅	溝、井戸状遺構、須恵器 等		上埋 15
92-5	松山 1-4-32	(1992.10.30)	78.4		共同住宅	遺構遺物なし		上埋 15
92-6	中福岡 362	(1992.7.17～22)	998		共同住宅	遺構遺物なし	旧福岡新田遺跡 (1992年度福岡 新田試掘)	上埋 15
15次	松山 2-3-41	(1993.4.5～16) 1993.4.19～28	509.19	148	個人住宅	古代住居跡 1、須恵器		上埋 16
17次	築地 3-2-19	1993.5.10～24	597		駐車場	古代住居跡 1、土師器 等		上埋 16
16次	松山 2-3-43・44	(1993.4.5～16) 1993.7.2～15	509.19	156.76	個人住宅	古代住居跡 1、墨書土器、須恵器 等		上埋 16
93-3	築地 3-2-17・31	(1993.10.15～20)	994.22		共同住宅	遺構遺物なし		上埋 16
93-4	築地 2-5-2の一部	(1993.10.22～26)	1,246.63		共同住宅	遺構遺物なし		上埋 16
18次	築地 3-1-16	1993.12.1～7	290		駐車場	古代住居跡 1		H5 上社



第19図 松山遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

地区 地点	所在地	調査期間 ( ) は試掘調査	開発面積 (㎡)	調査面積 (試掘)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
19次	松山 2-5-9	1994.1.17 ~ 2.3	1,531.38	120	貸店舗	古代住居跡 2、溝、墨書土器、土錘、須恵器等		上埋 3
94-1	築地 2-2-3	(1994.5.30)	310.48		分譲住宅	遺構遺物なし		上埋 17
20次	築地 1-2-4	(1994.6.24 ~ 7.1) 1994.7.1 ~ 12	559.17		共同住宅	古墳時代住居跡 1、溝、土師器等		上埋 17、 上埋 5
94-3	築地 2-4-7	(1994.8.3 ~ 12)	532.36		分譲住宅	遺構遺物なし		上埋 17
95-1	築地 3-1-9・10	(1995.5.10 ~ 19)	303		分譲住宅	遺構遺物なし		上埋 18
95-2	築地 3-3-2	(1995.5.22 ~ 6.15)	542		宅地造成	古墳時代住居跡 1、溝、土師器等		上埋 18
95-3	築地 3-2-23	(1995.10.17 ~ 20)	153.25		個人住宅	遺構遺物なし		上埋 18
21次	築地 3-2-23	1995.10.17 ~ 20	378.53		市道	古墳時代住居跡 1、遺物なし		H7 上社
95-4	松山 2-5-8・16	(1995.12.22)	413		宅地造成	遺構遺物なし		上埋 18
96-1	築地 3-2-13・24 の一部	(1996.4.23・24)	139		個人住宅	遺構なし、土師器等		上埋 19
96-2	松山 2-2-1	(1996.7.22 ~ 24)	489		宅地造成	溝、遺物なし		上埋 19
97-1	松山 1-4-17	(1997.9.11 ~ 18)	591		個人住宅	遺構なし、土師器等		上埋 20
22次	築地 3-4-15・23	1997.12.15 ~ 24	419		個人住宅	古代住居跡 1、古代掘立柱建物跡 3、集石土坑、縄文土器、墨書須恵器		上埋 20
98-2	築地 3-2-23 外 2 筆	(1998.4.17・5.19 ~ 22)	450		宅地造成	遺構なし、縄文土器等		上埋 21
98-3・4	築地 3-3-1	(1998.4.20 ~ 5.20)	922		宅地造成	溝、縄文土器等		上埋 21
23次	築地 3-2-24 の一部	(1998.4.16) 1998.5.11 ~ 14	240	120	個人住宅	古代住居跡 1、溝、須恵器、土錘		上埋 21・23
98-5	築地 1-3-18	(1998.7.1)	167.06		個人住宅	遺構遺物なし		上埋 21
24次	築地 3-2-4・22 の一部	1998.9.8 ~ 21	50		農地改良	古代住居跡 1		H10 上社
98-6	築地 2-5-6	(1998.9.1 ~ 4)	363		個人住宅	遺構なし、土師器等		上埋 21
25次	築地 3-2-23 外 2 筆	1999.3.3 ~ 12	240		個人住宅	古代住居跡 2、溝、暗文土器等		H10 上社
99-1	松山 2-1-10	(1999.4.16)	166		個人住宅	遺構遺物なし		上埋 22
99-2	松山 2-3-3	(1999.5.6 ~ 12)	340		宅地造成	溝、縄文土器		上埋 22
99-3	築地 3-3-14・15	(1999.6.22 ~ 24)	778.29		宅地造成	遺構なし、陶磁器片等		上埋 22
99-4	築地 3-5-15 の一部、 24・27	(1999.8.2 ~ 6)	745.58		宅地造成	ピット、須恵器等		上埋 22
99-5	築地 3-5-28	(1999.8.26 ~ 9.1)	331.3		個人住宅	溝、土師器等		上埋 22
26次	築地 1-3-21	2000.5.15 ~ 6.2 (2000.4.27 ~ 5.12)	627.9		市道設置	古代住居跡 1、井戸、土師器、青磁碗等		上埋 23、 H12 上社
00-2	築地 1-3-5・25・27 ・35	(2000.5.17 ~ 25)	687.3		共同住宅	土坑、遺物なし		上埋 23
27次	仲 2-1-10 の一部	2000.6.12 ~ 7.3 (2000.5.22 ~ 6.8)	912		共同住宅・ 市道	古代住居跡 1、土師器等		上埋 23
00-4	松山 2-2-5	(2000.10.30)	592		共同住宅	遺構遺物なし		上埋 23
28次	築地 1-1-25	2001.2.8 ~ 21	165.6		個人住宅	古代住居跡 1		H12 上社
00-5	築地 3-1-28	(2001.2.2 ~ 13)	614		宅地造成	古代住居跡 1、溝、須恵器等		上埋 23
00-6	松山 2-1-8・17	(2001.3.21)	174.9		宅地造成	遺構なし		H12 上社
01-1	新田 2-450-1	(2001.4.12・13)	204.15		個人住宅	遺構遺物なし		上埋 24
01-2	仲 2-1-10 の一部	(2001.5・8・9・17・ 18)	168		地区計画道 路	溝、陶磁器等		上埋 24
01-3	築地 3-4-10	(2001.5.10 ~ 15)	434.59		共同住宅	溝、遺物なし		上埋 24
01-4	仲 1-1-2・3・14	(2001.9.12)	694.68		個人住宅	遺構遺物なし		上埋 24
29次	築地 1-2-8	(2002.5.20 ~ 23) 2002.7.2 ~ 8.9	978	36	遺構所在確 認 (個人住宅)	古代住居跡 1、土師器		上埋 25
02-2	築地 3-5-35・36	(2002.7.11)	248.09		宅地造成	焼土、遺物なし		上埋 25
02-3	松山 2-5-7	(2002.8.5)	358.57		宅地造成	遺構遺物なし		上埋 25
02-4	築地 1-3-28	(2002.8.20・21)	479		共同住宅	遺構遺物なし		上埋 25
02-5	築地 1-3-22・25・ 30	(2002.8.22 ~ 28)	640.68		遺構所在確 認	古代住居跡 1、常滑甕		上埋 25
02-6	松山 2-6-5	(2002.9.9)	147		個人住宅	遺構遺物なし		上埋 25
03-1	本新田 1-23	(2003.4.16 ~ 21)	1,080.48		共同住宅	遺構なし、板碑		上埋 26
03-2	築地 3-5-3 他 6 筆	(2003.8.19・20)	2,578.02		宅地造成	古代住居跡 2、土師器		上埋 26
03-3	中ノ島 1-2-19・68	(2003.4.28 ~ 5.6)	248.09		共同住宅	溝、板碑等	旧中ノ島地区試 掘	上埋 26
30次	松山 2-2-3	2003.10.3 ~ 10	142.47		個人住宅	古代住居跡 1、土師器等		上埋 26、 市内 1
04-1	築地 3-1-16・32 の 一部	(2004.4.22・23)	976		宅地造成	遺構遺物なし		上埋 27
04-2	築地 1-3-37	(2004.4.26)	165		個人住宅	遺構遺物なし		上埋 27
04-3	松山 2-6-11	(2004.6.16)	309		宅地造成	遺構遺物なし		上埋 27
04-4	築地 2-5-14・25・ 27	(2004.8.5)	280		個人住宅	遺構遺物なし		上埋 27
04-5	築地 3-4-12	(2004.9.6 ~ 8)	911		宅地造成	溝、遺物なし		上埋 27
05-1	松山 2-2-4 の一部	(2005.4.6・7)	313		土地分譲	遺構遺物なし		市内 1

地区 地点	所在地	調査期間 ( )は試掘調査	開発面積 (㎡)	調査面積 (試掘)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
05-2	築地 3-1-32・34・43	(2005.4.19～21)	549		土地分譲	遺構なし、須恵器等		市内1
05-3	築地 2-5-32	(2005.4.28)	132		個人住宅	遺構遺物なし		市内1
31次	築地 3-1-69	(2005.6.9～13) 2005.6.14～23	120		個人住宅	古代住居跡1、土坑、土師器等		市内1
32次	築地 2-5-3	(2005.8.30～9.9) 2005.9.8～13	567	132	宅地造成 (個人住宅)	古代住居跡2、土師器等		市内1
05-4	松山 2-4-23	(2005.10.20・21)	161		個人住宅	遺構遺物なし		市内1
05-5	築地 2-5-36	(2005.10.31)	125		個人住宅	遺構遺物なし		市内1
05-6	仲 1-4-26	(2005.11.14)	108		個人住宅	遺構遺物なし		市内1
05-7	松山 2-5-21	(2006.2.28)	100		個人住宅	遺構遺物なし		市内2
37	松山 2-6-10・13	(2006.4.13)	228	(60)	個人住宅	遺構遺物なし		市内3
38	仲 1-4-3・9・12・13・24	(2006.5.29)	2,176	(76)	宅地造成	遺構遺物なし		市内3
39	築地 2-3-10	(2007.1.10～20)	937	(330)	宅地造成	ビット、縄文土器		市内3
40	築地 1-1-5	(2007.2.2～8) 2007.2.21～3.9	1,047	(500)	宅地造成	古代住居跡1、地下室、落とし穴、ビット、溝、須恵器等		市内3
41	中ノ島 1-2-5	(2007.2.7～9) 2007.2.21～3.5	1,281	(330)	宅地造成	土坑、溝、須恵器等		市内3
42	仲 2-3-15	(2007.2.13)	108	(12)	個人住宅	遺構遺物なし		市内3
43	築地 2-5-2	(2007.4.11～24)	668.13	(281)	分譲住宅	堀跡、土坑、溝、石器等		市内4
44	築地 3-2-10・14	(2008.6.9～11)	132	(35)	個人住宅	遺構遺物なし		市内6
45	築地 3-4-7の一部外 6筆	(2008.9.4～30) 2008.10.1～23	390	(390)	道路	古代住居跡2、古代掘立柱建物跡2、溝、溝状遺構、ビット、土師器等		市内6
46	築地 3-1-33・35の一部	(2009.2.17)	309	(28)	個人住宅	遺構遺物なし		市内6
47	築地 3-1-52	(2009.5.11・12)	121	(30)	個人住宅	遺構遺物なし		市内8
48	仲 2-2-34	(2009.7.1)	67	(21.7)	個人住宅	ビット、遺物なし		市内8
49	松山 2-6-1・14・22の一部	(2009.10.17～22) 2009.10.27～11.18	449	(158.8) 30	共同住宅	古代住居跡1、溝、井戸、須恵器等		市内7・8
50	松山 2-5-3・17	(2009.11.27～12.1)	797	(160)	宅地造成	ビット、溝、須恵器		市内8
51	松山 2-6-22・23、28の一部	(2010.5.10～13)	360	(60)	分譲住宅	ビット、遺物なし		市内10
52	築地 2-2-1	(2010.8.26～9.3)	694	(322)	分譲住宅	落とし穴、溝、遺物なし		市内10
53	築地 3-1-11	(2010.9.10～21)	205	(90)	個人住宅	溝、穴蔵、磁器等		市内10
54	築地 3-1-6、76～83	(2010.9.21～10.1) 2010.10.4～11.5	539.51	(230) 80	宅地造成	古代住居跡3、須恵器等		市内9
55	松山 2-4-24の一部	(2011.1.17) 2011.1.18～31	226.37	(62) 226	個人住宅	古代住居跡1、古代掘立柱建物跡1、土坑、須恵器等		市内10
56	築地 3-4-7・8の一部	(2011.4.4～14) 2011.4.11～15	482.53	(210.1) 87	共同住宅	古代掘立柱建物跡3、土坑、ビット、溝、墨書土器、須恵器等		市内11
57	築地 3-4-47	(2011.4.6～7)	241	(101.7)	分譲住宅	古代住居跡1、溝、遺物なし		市内14
58	仲 2-2-31	(2011.6.6～8) 2011.6.14	114.54	(21.5) 2.4	個人住宅	溝、ビット、井戸、遺物なし		市内14
59	仲 2-3-6・9	(2011.8.8～9) 2011.8.10・11	559.7	(77) 18	個人住宅	土坑、溝、縄文土器等		市内14
60	仲 1-1-15	(2012.3.26～27)	165.31	(58)	個人住宅	堀跡、溝、陶磁器等		市内14
61	仲 2-3-3	(2012.4.16～19)	113	(18)	個人住宅	土坑、溝、陶磁器		市内15
62	築地 3-5-11・14・19	(2012.6.11～21) 2012.7.23～8.1	842	(172.5) 66.5	分譲住宅	縄文時代住居跡1、古代住居跡1、ビット、溝、縄文土器等		市内12
63	仲 1-1-55・56・57	(2012.6.5)	120	(25)	個人住宅	遺構遺物なし		市内15
64	築地 3-4-9	(2012.6.7～15)	314	(115)	分譲住宅	土坑、溝、陶磁器		市内15
65	仲 2-1-25・36	(2013.2.13～18)	630	(11) 20	物置	古代住居跡2、掘立柱建物跡3、土坑、溝、須恵器等		市内15
66	仲 2-1-53・54	2013.2.19～3.21	179	(36) 100	個人住宅			市内15
67	築地 3-3-13	(2013.2.19)	91.97	(9)	個人住宅	遺構遺物なし		市内15
68	築地 3-5-1	(2013.3.7～8)	166	(26)	個人住宅	土坑、ビット、井戸、須恵器等		市内15
69	仲 1-2-51・53・55	(2013.9.10～11) 2013.9.12～17	298	(126) 5	道路	集石土坑、溝、縄文土器		市内18
70	仲 2-2-39・41	(2013.4.11～16) 2013.4.17～23	220.41	(162)	道路	古代住居跡1、集石土坑、溝、井戸、須恵器等		市内18
71	築地 3-1-16・32・34	(2013.4.30～5.1)	240	(87.7)	分譲住宅	ビット、古銭等		市内18
72	松山 1-4-1	(2013.5.24)	198.86	(1)	個人住宅	遺構遺物なし		市内18
73	築地 3-1-56	(2013.8.19) 2013.8.20	165	(45) 5	個人住宅	古代住居跡1、墨書土器、須恵器		市内18
74	仲 2-1-37	(2013.12.24～26)	280.24	(65.3)	分譲住宅	集石土坑、土坑、ビット、溝、井戸、陶磁器		市内18

地区 地点	所在地	調査期間 ( )は試掘調査	開発面積 (㎡)	調査面積 (試掘)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
75	仲 2-2-2・4	(2014.1.14 ~ 20) 2014.8.5 ~ 11	606	(214) 12	分譲住宅	古代住居跡1、溝、須恵器等		市内 18
76	仲 2-2-48	(2014.1.22 ~ 28) 2014.9.26 ~ 10.2	120	19.4	個人住宅	土坑、溝、井戸、土師器等		市内 18
	仲 2-2-37(6区画)	(2014.1.22 ~ 28) 2014.11.12 ~ 17	120	7	個人住宅	古代住居跡1、土坑、井戸、土師器等		市内 18
	仲 2-2-37	(2014.1.22 ~ 28)	362	(131)	宅地造成	古代住居跡1、土坑、溝、井戸、土師器等		市内 18
77	松山 2-6-2・3・12 の各一部	(2014.3.3 ~ 11) 2014.3.13 ~ 26	493	(95) 22.8	個人住宅	古代住居跡1、土坑、墨書土器、土師器等		市内 18
78	松山 2-5-5	(2014.5.22)	242	(35.3)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 20
79	本新田 395-1 の一部	(2014.8.5)	153	(36)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 20
80	池上 372	(2015.3.12)	1,183.4	(90)	個人住宅	遺構なし、焙烙等		市内 20
81	築地 1-1-12	(2015.3.23)	247.49	(74.3)	分譲住宅	溝、遺物なし		市内 20
82	本新田 411 の一部	(2015.7.30・31)	194	(35)	個人住宅	堀跡、縄文土器		市内 22
83	仲 1-2-22	(2015.8.31)	98	(6)	分譲住宅	遺構なし、縄文土器		市内 22
84	築地 3-4-13	(2015.9.15・16)	455	(190)	宅地造成	古代住居跡1、井戸、縄文土器等		市内 22
85	池上 362-1 の一部、 364・365・366 の一 部	(2015.10.1 ~ 19) 2015.10.20 ~ 26	1,244.47	(485.6) 93	分譲住宅	古代住居跡2、焼土、溝、須恵器等		市内 19
86	築地 1-1-4	(2016.7.5・7)	294	(37.9)	分譲住宅	溝、陶磁器		市内 24
87	築地 3-1-21・22 の 一部、39・40・41・ 84	(2016.9.14)	427	(29.5)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 24
88	築地 1-3-36	(2016.10.13)	120	(18.8)	個人住宅	土坑、ピット、溝、遺物なし		市内 24
89	築地 2-1-11・16	(2017.3.3 ~ 6)	287.04	(89.3)	分譲住宅	遺構なし、須恵器		市内 24
90	仲 1-1-37 の一部	(2017.10.12)	120	(12)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 24
91	築地 1-3-8 の一部	(2017.10.24)	416	(51.75)	個人住宅	溝、陶器等		市内 24
92	築地 3-4-3	(2017.10.30・31)	621	(177.75)	分譲住宅	土坑、ピット、縄文土器		市内 24
93	築地 3-5-72	(2017.11.27・28)	571.97	(114.35)	共同住宅	古代住居跡2、土坑、堀跡、溝、墨書土器、 土師器等		市内 24
94	築地 3-5-4	(2018.3.23)	1,508	(17.25)	作業場	古代住居跡1、ピット、土師器等		市内 24
95	松山 2-1-12	(2018.8.1・2、9.13)	353	(38.96)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 25
96	仲 1-1-34	(2018.8.20)	165.43	(31.95)	個人住宅	堀跡		市内 25
97	築地 3-1-5・7 の各 一部	(2018.10.30)	253	(61.93)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 25
98	松山 2-2-4	(2018.11.1)	1,291.34	(54.46)	店舗	遺構なし、須恵器		市内 25
99	仲 2-4-2	(2019.1.11 ~ 15) 2019.1.21・22	673.35	(201.25) 33.8	分譲住宅	堀状遺構、陶磁器等		市内 23
100	築地 3-1-5 の一部	(2019.8.8) 2019.8.9 ~ 23	327	(21) 45	個人住宅	古代住居跡1、土師器等		市内 25
101	仲 1-2-52・54	(2019.10.30 ~ 11.1)	1,219	(222)	分譲住宅	土坑、溝、遺物なし		市内 25
102	築地 2-3-14・15	(2020.3.17)	91	(5)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 25
103	松山 2-1-4 の一部	(2020.6.10 ~ 12)	462	(137)	共同住宅	溝、土師器等		市内 26
104	池上 356-1、357、 360 の各一部	(2020.9.28・29)	1,586.87	(64.75)	宅地造成	土坑、溝、須恵器片		市内 26
	池上 355、356-1、 357、360、361 の各 一部	(2020.9.28・29)	2,944.13	(4)	宅地造成	遺構遺物なし		市内 26
105	仲 2-1-8	(2020.10.22・12.25)	257.87	(77.65)	共同住宅	遺構なし、陶磁器		市内 26
106	築地 2-1-8	(2021.6.1)	198	(57)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 27
107	仲 2-4-10	(2021.6.2)	422.94	(10.5)	分譲住宅	ピット、溝、遺物なし		市内 27
108	松山 2-6-8	(2022.2.16)	145.8	(11)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 27
109	仲 2-1-16	(2022.3.7)	99.17	(23.25)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 27
110	本新田 405-1 の一部	(2022.4.5)	277	(17.82)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 28
111	仲 1-4-2	(2022.4.19)	408.39	(18.45)	個人住宅	溝、遺物なし		市内 28
112	築地 2-3-5	(2022.10.5)	151.52	(18.36)	個人住宅	遺構なし、陶磁器		市内 28
113	松山 2-3-18・28	(2022.10.11)	180	(18.2)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 28
114	築地 3-1-30・64・ 65・68	(2022.10.12 ~ 14)	278.83	(45.6)	分譲住宅	古代住居跡1、須恵器、土師器、土鍾、鉄 製品		市内 28
115	仲 2-2-25	(2022.12.23) 2022.12.23	173.64	(24.3) 10	個人住宅	堀跡、遺物なし		市内 28



第20図 松山遺跡遺構分布図 (1/3,000)

第14表 松山遺跡古代住居跡一覧表 (単位 cm)

住居 番号	調査 年度	調査名	調査率	平面形 ( )は推定	規模	炉		設置壁	竈		周溝	主軸方位	時期	備考	所収報告書	
						K (竈)			規模 (cm)							
1	1978	第1次1号住居	完掘	正方形	390 × 380	K		東			○		国分前半		上埋 I	
2		第1次2号住居	完掘	台形	360 × 320	K		東			○		国分前半			
3	1979	第2次3号住居	2/3	(方形)	350 × —	K		東			○		国分後半		上埋 II	
4		第3次4号住居	完掘	方形	530 × 475	K		北			○	N-14-E	国分後半			
5	1991	第10次5号住居	完掘	長方形	230 × 350	K		北・東	※竈2ヶ所か		○		9C 2 半期		上埋 14	
6		第10次6号住居	2/3	(方形)	340 × 300	K		東			○		9C 2 半期			
7		第11次7号住居	完掘	正方形	400 × 400						○		8C 4 半期	遺存状態悪い		上埋 14
8	1992	第13次8号住居	3/4	(方形)	400 × 400 以上			未掘				N-10-E	8C 3 半期	建替	上埋 15	
9	1993	第15次9号住居	完掘	長方形	A : 450 × 300 B : 420 × 310 C : 250 × 300	K		北 東 東			○		9C 1 半期	建替え3回、 鉄鉢型須恵器	上埋 16	
10		第16次10号住居	1/3	(正方形)	560 × 560	K		北			○		8C 4 半期	墨書土器	上埋 16	
11		第17次11号住居	完掘	方形	600 × 600	K		北			○		7C 4 半期	黒色土師器	上埋 16	
12		第18次12号住居	完掘	方形	400 × 320	K		北			(○)		8C 4 半期		上埋 16、 市史通上	
13	1994	第19次13号住居	完掘	長方形	450 × 300	K		北			○	N-5-E	9C 1 半期		上調 3	
14		第19次14号住居	完掘	長方形	450 × 500	K		東・北	※竈2ヶ所		○	N-5-E	9C 1 半期	土錘・墨書土器		
15		第20次15号住居	完掘	長方形	370 × 470	K		北西			○		7C 4 半期			上調 5
16	1995	95-試(2)16号住居										N-20-W	6C		未報告	
17		第21次17号住居	完掘	長方形	480 × 400	K		北			○		7C 4 半期		上埋 19	
18	1997	第22次18号住居	完掘	長方形	240 × 460	K		東			○	N-50-E	8C 末		上埋 20	
19	1998	第23次19号住居	4/5	(長方形)	260 × 290						○	N-30-W	8C 後半	土錘6点	上埋 21	
20	1999	第25次20号住居			—								8C 初頭	暗紋土師器	市史通上	
21		第25次21号住居				—							8C 初頭		未報告	
22	2000	第26次22号住居	完掘		360 × —	K		北			○		7C 後半	焼失住居	上埋 23	
23		02-試(5)														
24	2001	第27次23号住居	完掘	台形	600 × 720	K		北			○		8C 半ば		上埋 24	
25	2000	第28次24号住居	1/2	不明	340 × —	K		北西			○		8C 中葉		上埋 24	
26	2000	00-試(5)	2/3											遺存状態悪い	上埋 23	
27	2002	第29次26号住居	完掘	長方形	420 × 360	K		北			○		7C 後半		上埋 25	
28		03-試(2)27号住居	一部												プランのみ	上埋 26
29	2003	03-試(2)28号住居	1/2											プランのみ		
30	2005	第30次29号住居	完掘	長方形	360 × 420	K		東			○		9C 前半		市内 1	
31		第31次30号住居	完掘	長方形	360 × 600	K		北			○			土錘		
32		第32次31号住居	完掘	長方形	380 × 330	K		東	80 × 50	○	S-65-E		9C 中葉			
33	2006	第32次32号住居	1/2	(長方形)	400 × 300 以上	K		東		○	S-85-E		9C 中葉		市内 3	
34	2008	第40地点H33号住居	完掘	方形	455 × 420	K		北	154 × 98	○	N-5-E		8C 後半		市内 6	
35		第45・57地点H34号住居	完掘	方形	364 × 361	K		東		○	N-96-E					
36	2009	第45・84地点H35号住居	南1/2	(方形)	504 × (222)			未掘			○	N-95-E		焼失住居	市内 7	
37	2010	第49地点H36号住居	完掘	方形	280 × 290	K		東	105 × 100	○	N-92-E		8C 後半	鍛冶炉 1	市内 9	
38		第54地点H37号住居	完掘	方形	434 × 524	K		北	106 × 81	○	N-13-E		8C 1 四半期			
39		第54地点H38号住居	一部	(方形)	(440) × 468	K		東		○	N-107-E		8C 1 四半期	プランのみ		
40	2011	第54地点H39号住居	完掘	方形	336 × 459	K		北	79 × 101	○	N-4-E		8C 1 四半期		市内 10	
41	2012	第55地点H40号住居	3/4	(方形)	(300 × 320)	K		東	123 × 65	○	N-90-E		9C 前半		市内 12	
42	2013	第62地点H41号住居	3/4	(方形)	410 × (300)	K		北			○		N-18-E		市内 15	
43		第65・66地点H42号住居	完掘	方形	460 × 440	K		東	110 × 106	○	N-62-E		9C 前半			
44		第66地点H43A号住居	完掘	方形	470 × 470	—		—			—		N-66-E	9C 中葉 前後以降		
45		第66地点H43B号住居	完掘	方形	700 × 700	K		東	125 × 140	○	N-66-E		9C 中葉 前後以降			
46		第70・76地点H44号住居		(長方形)	(420) × 340	K		北	65以上 × 80以上	○			8C 前半			
47		第73地点H45号住居	一部	不明	(238 × 125)			未掘			○		8C 後半	墨書土器 2点		
48		第75地点H46号住居	一部	不明	(320 × 145)			未掘			○		8C 前半～中			
49		第77地点H47号住居	一部	不明	410 × ( 95)	K		北	135 × 156	○			8C 中～後半	墨書土器		
50	2015	第85地点H48号住居	完掘	(長方形)	356 × (270)	K		北	133 × (96)	○	N-65-E		9C 後半	溝に切られる	市内 19	
51		第85地点H49号住居	1/2	(長方形)	(225 × 70)	K		北			○	N-60-E		9C 後半		
52	2017	第93地点H50号住居	未掘	長方形	473 × 381	K		北					7C 末～ 8C 前半	墨書土器 2点、 土坑に切られる	市内 24	
53		第93地点H51号住居	一部	不明	300 以上	K		東			○	N-72-E	8C 前半			
54		第94地点H52号住居	一部	不明	不明			未掘			○		8C 代	攪乱		
55	2019	第100地点H53号住居	2/3	不明	(380) × 520			未掘			○	南北	7C 後半～ 8C 初頭	東側一部攪乱	市内 25	
56	2022	第114地点H54号住居	1/2	不明	(180) × 423			未掘			○	不明	8C 後半		市内 28	

## (2) 遺構と遺物

溝は調査区中央部で検出し、N-17°-E を指向する。断面形態は逆台形を呈する。規模は上幅 52 ～ 73cm、下幅 32 ～ 50cm、深さ 28.9cm を測る。出土遺物はなく時期は不明。

## IV 松山遺跡第 112 地点

### (1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2022 年 7 月 4 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の東部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2022 年 10 月 5 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1 ～ 1.7m のトレンチを 2 本設定し、重機による表土除去後に人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 70 ～ 90 cm である。

調査の結果、遺構は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

### (2) 遺構と遺物

#### ① 出土遺物

遺構外から陶磁器が 1 点出土した。磁器の皿で染付が施されており、轆轤成形。近代か。

## V 松山遺跡第 113 地点

### (1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2022 年 6 月 27 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2022 年 10 月 11 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1 ～ 1.5m のトレンチ 2 本を設定し、重機による表土除去後に人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 100 cm である。

調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

## VI 松山遺跡第 114 地点

### (1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より 2022 年 9 月 26 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部やや西寄りに位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2022 年 10 月 12 ～ 14 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1 ～ 1.5m のトレンチを 2 本設定し、重機による表土除去後に人力による表土除去及び表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 40 ～ 50 cm である。

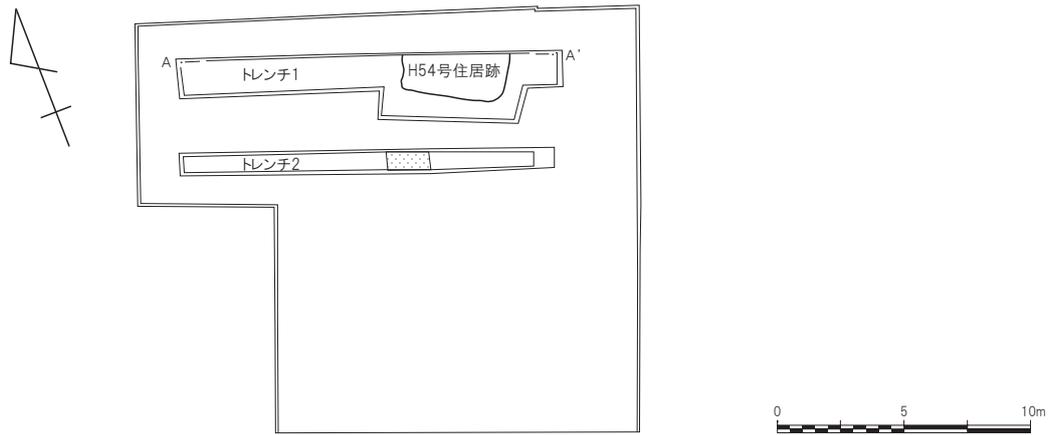
調査の結果、調査区北東部で古代住居跡 1 軒を検出した。盛土による保護層の確保が可能のため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

### (2) 遺構と遺物

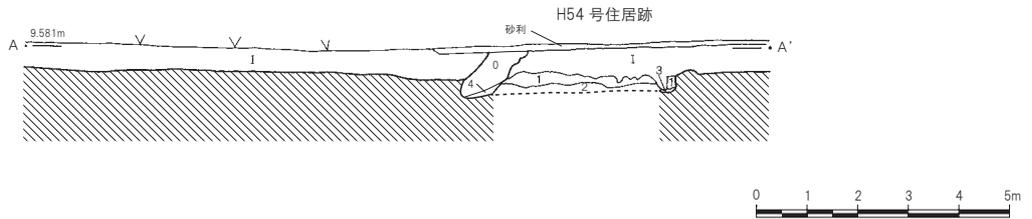
#### ① 住居跡

**【位置】** 調査区北東部に位置する。

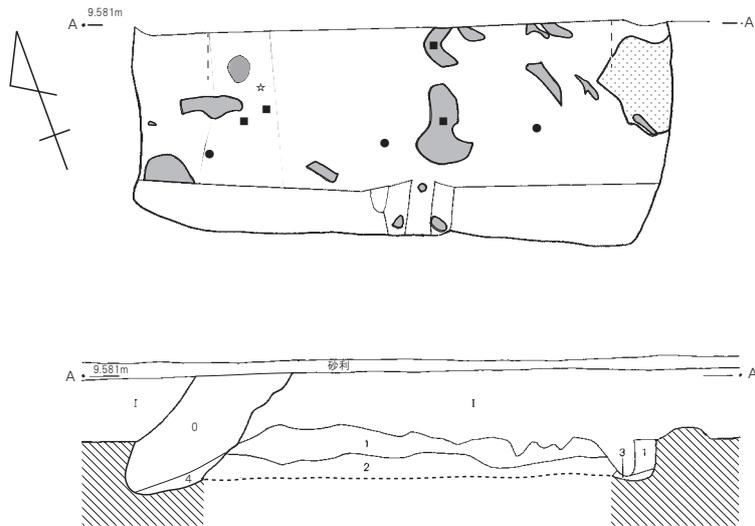
**【形状・規模】** 住居北側 1/2 程度が調査区外のため、全体の形状および規模は不明。今回確認した住居の規模は、南北 (180) cm、東西 423cm、深さ 31.5cm を測る。保護層の確保が可能のため完掘はしていない。



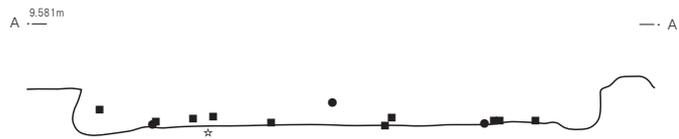
トレンチ 1



H54号住居跡



遺物出土状況



- I. 表土
- 0. 攪乱
- 1. 暗褐色土 締りやや弱、粘性有、ローム粒を多く含む
- 2. 暗褐色土 締りやや弱、粘性有、ローム粒・炭化物・焼土を多く含む
- 3. 明黄褐色土 締りやや強、粘性有、ローム粒非常に多く含む、周溝覆土
- 4. 暗褐色土 ローム粒・炭化物・焼土をやや多く含む



第23図 松山遺跡第114地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)、H54号住居跡・土層(1/60)

【構造】南側壁の中心部を一部掘削したが、竈は検出できなかった。そのため正確な主軸は不明である。東壁面に沿って周溝が確認できたが、試掘のため全周するかどうかについては不明である。断面図から、周溝の規模は残存幅 33 cm、深さ 33 cm を測る。全体的に炭化物が多数出土しており、焼土も散見される。焼失住居の可能性も考えられるが、完掘していないので断定はできない。炭化物については科学分析を実施しており、結果は附編に掲載した。

## ②出土遺物

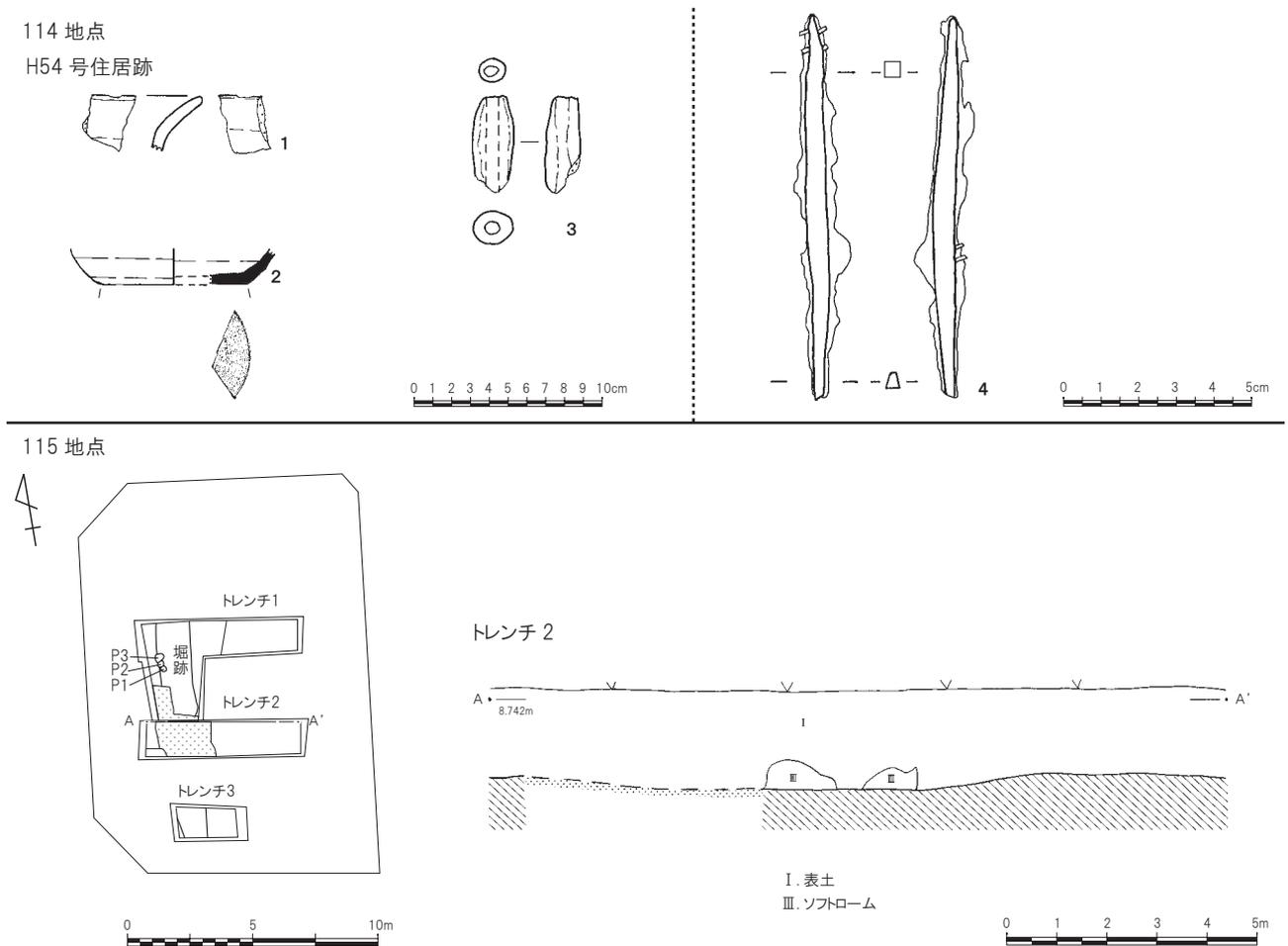
1 は住居内中央部東寄りから出土した土師器甕の口縁から頸部にかけての小片。残存高 3 cm を測る。内外面とも横ナデ。色調は、にぶい橙 (2.5YR6/3)。時期は 8 世紀後半。器壁が薄く、武蔵型と思われる。

2 は住居内中央部から出土した須恵器坏。残存部から算出できる底径は 7.4 cm、残存高 2 cm を測る。轆轤使用。底部は回転ヘラ削り調整されている。胎土に海綿骨針を含む。南比企産。色調は、灰白 (7.5Y7/1)。時期は 8 世紀後半。

3 は住居内中央部西寄りから出土した土錘。残存長 5.1 cm、幅 1.8 ~ 2.2 cm。ナデ調整されている。胎土には橙褐色粒や砂粒を含む。色調は、にぶい橙 (7.5YR7/4)。時期は不明。

4 は鉄製品。断面形状は方形で、両端は尖状となるか。図示した上方に 2ヶ所、中央やや下に 2ヶ所線状の物質が確認される。長さ 10.2 cm、幅 0.5 cm、厚さ 0.6 cm、重さ 13.96 g である。時期は不明。

いずれも H54 号住居跡から出土した。第 24 図参照。



第 24 図 松山遺跡第 114 地点出土遺物 (1/4・1/2)、第 115 地点遺構配置図 (1/300)、土層 (1/150)

## 附 編

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

埼玉県ふじみ野市に所在する松山遺跡および北野遺跡は、武蔵野台地の北西部平坦面上に位置する。この付近の台地の北東側は荒川の沖積低地によって区切られ、また青梅付近の扇頂部から北東方向に流下する小河川沿いに段丘化した台地が広がっている。松山遺跡の位置する台地は、首都圏地盤解析ネットワークにより約3万年前に形成された Tc2 面に区分され、北野遺跡の位置する台地は、遠藤（2019）による地形区分では約8万年前に形成された M2 面に区分されている。

本報告では、松山遺跡第 114 地点の古代と推定される住居跡から出土した炭化材を対象に放射性炭素年代測定を実施し、住居跡の年代に関わる資料を作成する。また、炭化材の樹種同定から木材利用についても考察する。一方の北野遺跡第 61 地点では検出された堀跡の埋積土を対象として火山灰（テフラ）の分析を実施し、堀跡の埋没時期に関わる年代について検討を行う。

## I. 松山遺跡第 114 地点

### 1. 試料

試料は、松山遺跡第 114 地点の発掘調査の 1 トレンチより検出された H54 住居跡から出土した炭化材（試料名：4-3）1 点である。この炭化材は、断面が台形状（最大幅約 4cm、最大厚約 2.5cm）を呈する、板目材状の破片である。

### 2. 分析方法

#### (1) 放射性炭素年代測定

試料の表面に付着した土砂などの不純物を削り落として調整する。塩酸（HCl）により炭酸塩等酸可溶成分を除去、水酸化ナトリウム（NaOH）により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、塩酸によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理 AAA:Acid Alkali Acid）。濃度は塩酸、水酸化ナトリウム共に 1mol/L である。

試料の燃焼、二酸化炭素の精製、グラファイト化（鉄を触媒とし水素で還元する）は Elementar 社の vario ISOTOPE cube と Ionplus 社の Age3 を連結した自動化装置を用いる。処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を NEC 社製のハンドプレス機を用いて内径 1mm の孔にプレスし、測定試料とする。

測定はタンデム加速器をベースとした  $^{14}\text{C}$ -AMS 専用装置（NEC 社製）を用いて、 $^{14}\text{C}$  の計数、 $^{13}\text{C}$  濃度（ $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ ）、 $^{14}\text{C}$  濃度（ $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ ）を測定する。AMS 測定時に、米国国立標準局（NIST）から提供される標準試料（HOX- II）、国際原子力機関から提供される標準試料（IAEA-C6 等）、バックグラウンド試料（IAEA-C1）の測定も行う。 $\delta^{13}\text{C}$  は試料炭素の  $^{13}\text{C}$  濃度（ $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ ）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表したものである。

放射性炭素の半減期は LIBBY の半減期 5568 年を使用する。また、測定年代は 1950 年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma;68%）に相当する年代である。測定年代の表示方法は、国際学会での勧告に従う（Stuiver and Polach, 1977）。また、暦年較正用に一桁目まで表した値も記す。暦年較正に用いるソフトウェアは、OxCal4.4（Bronk, 2009）、較正曲線は IntCal20（Reimer *et al.*, 2020）である。なお、暦年較正は、大気中の  $^{14}\text{C}$  濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の  $^{14}\text{C}$  濃度の変動、その後訂正された半減期（ $^{14}\text{C}$  の半減期 5730 ± 40 年）を較正することによって、暦年代に近づける手法である。

#### (2) 炭化材（樹種）同定

試料を自然乾燥させた後、木口（横断面）・柁目（放射断面）・板目（接線断面）の 3 断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立

行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東（1982）、Wheeler 他（1998）を参考にする。また、日本産樹木の木材組織については、林（1991）や伊東（1995, 1996, 1997, 1998, 1999）を参考にする。

### 3. 結果

#### (1) 放射性炭素年代測定

結果を表 1, 図 1 に示す。H54 号住居跡から出土した炭化材（4-3）の同位体補正を行った測定結果は 1160 ± 20BP である。また、暦年較正結果（2σ）は calAD 772 ~ calAD 974 である。

表1. 放射性炭素年代測定結果および暦年較正結果

試料名	性状	処理方法	補正年代 BP (暦年較正用)	δ <sup>13</sup> C (‰)	暦年較正年代				Code No.						
					年代値				確率%						
					σ	cal AD	776 -	cal AD				786	1175 -	1165	cal BP
H54号 住居跡 炭化材 (4-3)	炭化材 (クヌギ節)	AAA (1M)	1160±20 (1160±20)	-34.24 ±0.27	σ	cal AD	832 -	cal AD	851	1119 -	1100	cal BP	13.3	YU- 19770	pal- 15057
						cal AD	875 -	cal AD	896	1075 -	1055	cal BP	22.5		
						cal AD	924 -	cal AD	950	1026 -	1000	cal BP	22.7		
					2σ	cal AD	772 -	cal AD	789	1178 -	1161	cal BP	12.4		
						cal AD	823 -	cal AD	901	1127 -	1050	cal BP	50.9		
						cal AD	916 -	cal AD	974	1034 -	977	cal BP	32.1		

1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。

2) BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。

3) 付記した誤差は、測定誤差σ（測定値の68.2%が入る範囲）を年代値に換算した値。

4) AAAは、酸・アルカリ・酸処理を示す。AaAは試料が脆弱なため、アルカリの濃度を薄くして処理したことを示す。HClは塩酸処理のみを示す。

5) 暦年の計算には、Oxcal v4.4を使用

6) 暦年の計算には、補正年代に括弧内に暦年較正用年代として示した、一桁目を丸める前の値を使用している。

7) 1桁目を丸めるのが慣例だが、較正曲線や較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。

8) 統計的に真の値が入る確率は、σが68.2%、2σが95.4%である

#### (2) 炭化材（樹種）同定

H54 住居跡から出土した炭化材（4-3）は、広葉樹のコナラ属コナラ亜属クヌギ節に同定された。以下に検出された分類群の木材解剖学的特徴等を述べる。

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節 (*Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Cerris*) ブナ科

環孔材で、孔圏部は1～3列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、単独で放射方向に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～20細胞高のものと複合放射組織とがある。

### 4. 考察

H54 住居跡から出土した炭化材（4-3）より得られた暦年較正結果は8世紀後半～10世紀後半であった。この暦年代範囲は、およそ奈良時代後半から平安時代前半頃に相当し、古代とされる調査所見を支持する。

また、同試料の炭化材の樹種はコナラ亜属クヌギ節であった。クヌギ節は、林縁や河川沿いなど、多湿な場所や伐採地など明るい林地を好む。また、クリやコナラ節などとともに、人家近くに多く、いわゆる「里山林」を構成する。里山林は、適度な伐採や粗朶の収奪などが行われることにより維持管理される森林で、萌芽による更新が容易な陽樹で構成される。

また、クヌギ節は、重硬で、加工しやすく、水湿にやや強いという材質から、建築材をはじめ、器具材や杭材などに使われる。また、火持ちが良く、火力も強いことから薪炭材としても良材とされる。木製品用材データベース（伊東・山田編, 2012）を参考として、埼玉県内の出土事例をみると、大宮台地を中心にコナラ亜属クヌギ節やコナラ節の炭化材が多く検出されている。今回の結果は、遺跡周辺より容易に入手可能な環境であつ

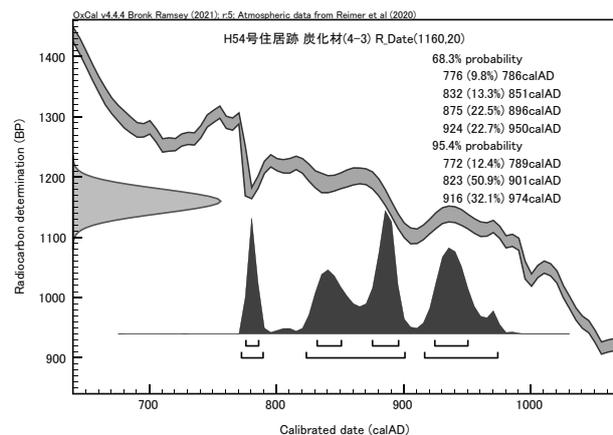


図1. 暦年較正結果

たことや、クヌギ節の材質的特徴から建築部材として利用されていたと考えられる。

<引用文献>

Bronk, R. C., 2009, Bayesian analysis of radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 51, 337-360.

林 昭三, 1991, 日本産木材顕微鏡写真集. 京都大学木質科学研究所.

伊東隆夫, 1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ. 木材研究・資料, 31, 京都大学木質科学研究所, 81-181.

伊東隆夫, 1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ. 木材研究・資料, 32, 京都大学木質科学研究所, 66-176.

伊東隆夫, 1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ. 木材研究・資料, 33, 京都大学木質科学研究所, 83-201.

伊東隆夫, 1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ. 木材研究・資料, 34, 京都大学木質科学研究所, 30-166.

伊東隆夫, 1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ. 木材研究・資料, 35, 京都大学木質科学研究所, 47-216.

伊東隆夫・山田昌久(編), 2012, 木の考古学 出土木製品用材データベース. 海青社, 449p.

Reimer P., Austin W., Bard E., Bayliss A., Blackwell P., Bronk R. C., Butzin M., Cheng H., Edwards R., Friedrich M.,

Grootes P., Guilderson T., Hajdas I., Heaton T., Hogg A., Hughen K., Kromer B., Manning S., Muscheler R., Palmer J.,

Pearson C., van der Plicht J., Reimer R., Richards D., Scott E., Southon J., Turney C., Wacker L., Adolphi F., Büntgen U.,

Capano M., Fahrni S., Fogtmann-Schulz A., Friedrich R., Köhler P., Kudsk S., Miyake F., Olsen J., Reinig F., Sakamoto M.,

Sookdeo A. and Talamo S., 2020, The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 calkBP).

*Radiocarbon*, 62(4), p.725-757.

島地 謙・伊東隆夫, 1982, 図説木材組織. 地球社, 176p.

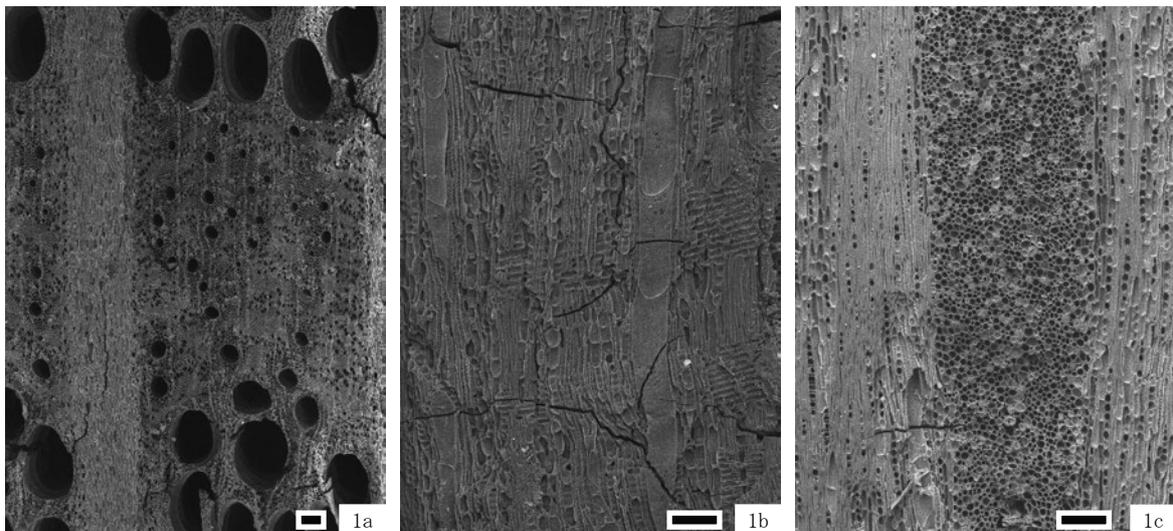
Stuiver M., and Polach AH., 1977, Radiocarbon 1977 Discussion Reporting of 14C Data. *Radiocarbon*, 19, 355-363.

Wheeler E. A., Bass P. and Gasson P. E. (編), 1998, 広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト. 伊

東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修), 海青社, 122p. [Wheeler E. A., Bass P. and Gasson P. E., 1989,

IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].

図版1 炭化材



1. コナラ亜属クヌギ節(4-3)

a:木口 b:柁目 c:板目  
スケールは100 μm



松山遺跡第 113 地点トレンチ 1



松山遺跡第 113 地点調査風景



松山遺跡第 114 地点 H54 号住居跡



松山遺跡第 114 地点トレンチ 1 (H54 号住居跡)



松山遺跡第 114 地点トレンチ 2



松山遺跡第 114 地点 H54 号住居跡炭化物出土状況①



松山遺跡第 114 地点 H54 号住居跡炭化物出土状況②

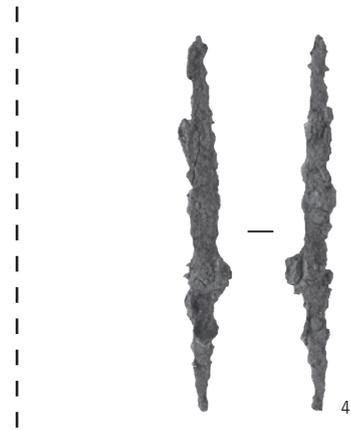


松山遺跡第 114 地点 H54 号住居跡炭化物出土状況③



松山遺跡第 114 地点 H54 号住居跡遺物出土状況

H54 号住居跡



松山遺跡第 114 地点出土遺物



松山遺跡第 115 地点トレンチ 2



松山遺跡第 115 地点トレンチ 3

## 報告書抄録

書名	市内遺跡群 28		シリーズ名	ふじみ野市埋蔵文化財調査報告第 29 集			
編集者	岡崎裕子		著者	岡崎裕子・石川安司・平野絢			
編集機関	ふじみ野市教育委員会		所在地	〒 356-8501 ふじみ野市福岡一丁目 1 番 1 号			
発行日	2024 年 (令和 6 年) 3 月 29 日			TEL 049 (261) 2611			
所収遺跡 地点名	所在地	市町村コード	北緯	調査開始	調査面積	調査原因	
		遺跡コード	東経	調査終了	m <sup>2</sup>	調査担当者	
	種別 / 主な時代 / 主な遺構 / 主な遺物 特記事項						
北野遺跡 第 57 地点	埼玉県ふじみ野市大原二丁目 2045-32	112453 25-002	35°52' 45" 139°30' 52"	20220411 20220411	8.8	分譲住宅 岡崎裕子	
	散布地 / 時期不明 / 溝 1 条 / 遺物なし 確認された遺構は、当地域の土地利用を知る上で貴重である。						
北野遺跡 第 61 地点	埼玉県ふじみ野市北野 二丁目 2114-1	112453 25-002	35°52' 47" 139°30' 47"	20230807 20230907	73.7	分譲住宅 岡崎裕子	
	散布地 / 時期不明 / 堀跡 1 本 / 遺物なし 確認された遺構は、当地域の土地利用を知る上で貴重である。						
ハケ遺跡 第 33 地点	埼玉県ふじみ野市福岡三丁目 2061-1	112453 25-005	35°53' 05" 139°31' 23"	20230110 20230210	621	確認調査 岡崎裕子	
	集落跡 / 時期不明 / 池 / 甕・石造物・縄文土器・陶磁器 福岡河岸の回漕問屋である旧江戸屋の庭園にあった池の範囲を確認した。						
権現山遺跡 第 30 地点	埼玉県ふじみ野市滝一丁目 5	112453 25-007	35°52' 49" 139°31' 39"	20230306 20230330	30	自然崩落 岡崎裕子	
	集落跡 / 時期不明 / 地下式坑 1 基 / 縄文土器・須恵器 権現山遺跡ではこれまで見つかっていなかった地下式坑を確認した。						
滝遺跡 第 42 地点	埼玉県ふじみ野市滝一丁目 1-9	112453 25-008	35°52' 43" 139°31' 35"	20221107 20221108	33.4	分譲住宅 岡崎裕子	
	集落跡 / 古代 / 土坑・ピット・井戸 / 土師器・須恵器 確認された遺構及び遺物は、当地域の集落形成とその範囲を知る上で貴重である。						
長宮遺跡 第 62 地点	埼玉県ふじみ野市長宮二丁目 1-21	112453 25-009	35°52' 38" 139°31' 43"	20221129 20230130	111.3	分譲住宅 岡崎裕子	
	集落跡 / 時期不明 / 土坑・ピット・溝・井戸 / 土師器・須恵器・陶磁器・板碑片 確認された遺構及び遺物は、当地域の集落形成及び土地利用を知る上で貴重である。						
松山遺跡 第 114 地点	埼玉県ふじみ野市築地三丁目 1-30・64・65・68	112453 25-010	35°52' 22" 139°31' 46"	20221012 20221014	45.6	分譲住宅 岡崎裕子	
	集落跡 / 時期不明 / 古代住居跡 1 軒 / 須恵器・土師器・土錘・鉄製品 確認された住居跡は、当地域の集落形成とその範囲を知る上で貴重である。						
松山遺跡 第 115 地点	埼玉県ふじみ野市仲二丁目 2- 25	112453 25-010	35°52' 22" 139°31' 55"	20221223 20221223	24.3	個人住宅 岡崎裕子	
	集落跡 / 時期不明 / 堀跡 1 本 / 遺物なし 確認された堀跡は、当地域の土地利用を知る上で貴重である。						
江川南遺跡 第 29 地点	埼玉県ふじみ野市東久保一丁 目 182-7	112453 30-007	35°51' 47" 139°30' 42"	20220912 20220916	16.26	分譲住宅 岡崎裕子	
	集落跡 / 時期不明 / 集石土坑 1 基・落とし穴 1 基・溝 1 条 / 焙烙・銭・陶磁器 確認された遺構及び遺物は、当地域の土地利用を知る上で貴重である。						
駒林遺跡 第 47 地点	埼玉県ふじみ野市駒林元町一 丁目 4-9	112453 25-013	35°51' 59" 139°31' 39"	20231016 20231122	69.4	宅地造成 岡崎裕子	
	堀跡 / 時期不明 / 堀跡 1 本 / 遺物なし 確認された遺構は、当地域の土地利用を考える上で貴重である。						
駒林遺跡 第 48 地点	埼玉県ふじみ野市新駒林二丁 目 315	112453 25-013	35°52' 04" 139°31' 32"	20231211 20240207	303.78	分譲住宅 岡崎裕子	
	堀跡 / 時期不明 / 井戸 1 基 / 甕 確認された遺構は、当地域の土地利用を考える上で貴重である。						